

対馬産タテスジコバネコロギスの記録と寄生虫

境 良朗

タテスジコバネコロギス *Metriogyllacris fasciatus* (Ichikawa, 2001) は比較的最近記載された種で、八丈島、吐噶喇列島宝島、対馬という特異な分布を示すコロギス科の昆虫である。南方系の種で、八丈島は日本海流（黒潮）、宝島・対馬は対馬海流の影響を受けたと推測される。ムツボシナガハナアブと同様に、いわゆる九州西廻りの分布型の一例といえるだろう。筆者は島内 2 カ所で撮影・採集しているが、これまで対馬での記録がほとんどみられないで報告する。

1) 対馬市峰町木坂：海神神社 (Mine-machi Kisaka : Kaijin-Jinja)

1♀, 2017 年 9 月 29 日 撮影 (写真 1)

海神神社の社叢でカミキリムシの探索をしていたときに同行の日下部満氏が発見し、潜んでいた枯葉ごと持ってきててくれた。林床は乾燥が酷く、下草もなく、見られる生き物はアリとクモだけといった状況だったので、肉食でもある本種にとっては厳しい生息環境であることがうかがえた。

2) 対馬市巣原町内山トンネル付近 (Izuhara-machi Uchiyama)

1♀, 2018 年 9 月 12 日 採集・撮影 (写真 2)

内山トンネル入口から少し中に入った壁にいた。入口付近は灯火に誘引された各種昆虫類が落ちていることが多く、捕食のためそれらを狙って来ていたのかもしれない。撮影は採集後に行った。

採集から 3 日後、体内から寄生虫である「線虫メルミス」が出て來たので、アルコールで固定保存した (写真 3)。

本種は分布状況からも貴重な昆虫であるし、主な生息環境と思われる林床が急激に悪化している現状から、長崎県 RL の DD としてリストアップする意義はあると考える。また、未だ知られていないといわれる♂はどんな姿をしているのか、さらに今後西九州の島嶼や海岸域、南九州などでも発見されるのか等の興味は尽きない。



写真 1



写真 2



写真 3 線虫メルミス

最後に、撮影の機会を与えていただいた日下部満氏、線虫ヘルメスについてご教示いただいた秋田勝巳氏にお礼申し上げる。